

2025年大阪・関西万博

徳島まるごと パビリオン

基本計画



To Tokushima, To Sustainable Future



目次

はじめに

序章 2025年大阪・関西万博概要

第1章 大阪・関西万博「とくしま活性化・魅力創出」方針・ロードマップ

第2章 関西パビリオン内「徳島パビリオン」出展計画

第3章 徳島「まるごとパビリオン」（全県展開）計画

第4章 機運醸成・魅力発信計画

第5章 徳島『まるごとパビリオン』資金計画

第6章 徳島『まるごとパビリオン』事業推進計画

序章 2025年大阪・関西万博概要

序章

名称

2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

テーマ

いのち輝く未来社会のデザイン
(Designing Future Society for Our Lives)

サブテーマ

Saving Lives（いのちを救う）
Empowering Lives（いのちに力を与える）
Connecting Lives（いのちをつなぐ）

コンセプト

People's Living Lab（未来社会の実験場）

会場

ゆめしま

夢洲（大阪市臨海部）

開催期間

2025年4月13日（日曜日）～10月13日（月曜日）

来場者数（想定）

約2,820万人

※2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）基本計画より引用

会場

ゆめしま

夢洲（大阪市臨海部）

大阪・関西万博の会場は、夢洲である。夢洲は、大阪市内の臨海部に位置する人工島であり、来場者は瀬戸内海の美しい景観に接することができる。世界とつながる海と空に囲まれた万博として、ロケーションを活かした企画や発信を行っていく。

会場面積は155haで、会場中心部にパビリオンエリアを設け、南側には水面、西側には緑地を配置した会場とする。



万博会場（夢洲） 航空写真

画像提供：2025年日本国際博覧会協会



2025年日本国際博覧会協会作成資料より引用

会場配置計画



パビリオン凡例

- 公式参加パビリオン

- 企業（民間）パビリオン

- シグネチャーパビリオン
（テーマ館）

画像提供：2025年日本国際博覧会協会

第1章

大阪・関西万博
「とくしま活性化・魅力創出」
方針・ロードマップ

1

1 「とくしま活性化・魅力創出」方針

大阪・関西万博「とくしま活性化・魅力創出」方針

1. 大阪・関西万博が目指すもの

- 【テーマ】いのち輝く未来社会のデザイン
【コンセプト】未来社会の実験場
- ・ 持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献
 - ・ 日本の国家戦略 Society 5.0の実現



画像提供：2025年日本国際博覧会協会

2. 徳島県が参画する意義

本県が関西広域連合の一員として誘致を実現させた「万博」を千載一遇のチャンスと捉え、先駆的な「未来技術」や魅力ある「食・文化」を発信し、新たな「人の流れ」を創出するとともに、次代を担う「子どもたち」が万博を通じ、未来社会の「夢や希望」を実感することで、ポストコロナ時代における本県の社会経済発展を実現

3. コンセプト

万博は「ゲートウェイ」、徳島「まるごとパビリオン」
～ 県民が参画し、県民が創る万博 ～

4. 取組方針

（1）持続可能な社会づくりで世界をリード

- ・ G20 消費者政策国際会合で評価された「消費者行政・消費者教育」をはじめ、本県の「SDGs」の先進的な取組みの一層の深化と普及を推進
- ・ 究極のクリーンエネルギー「水素」や「自然エネルギー」の利用拡大により、「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けた取組みを加速

（2）未来技術のショーケースを世界に展開

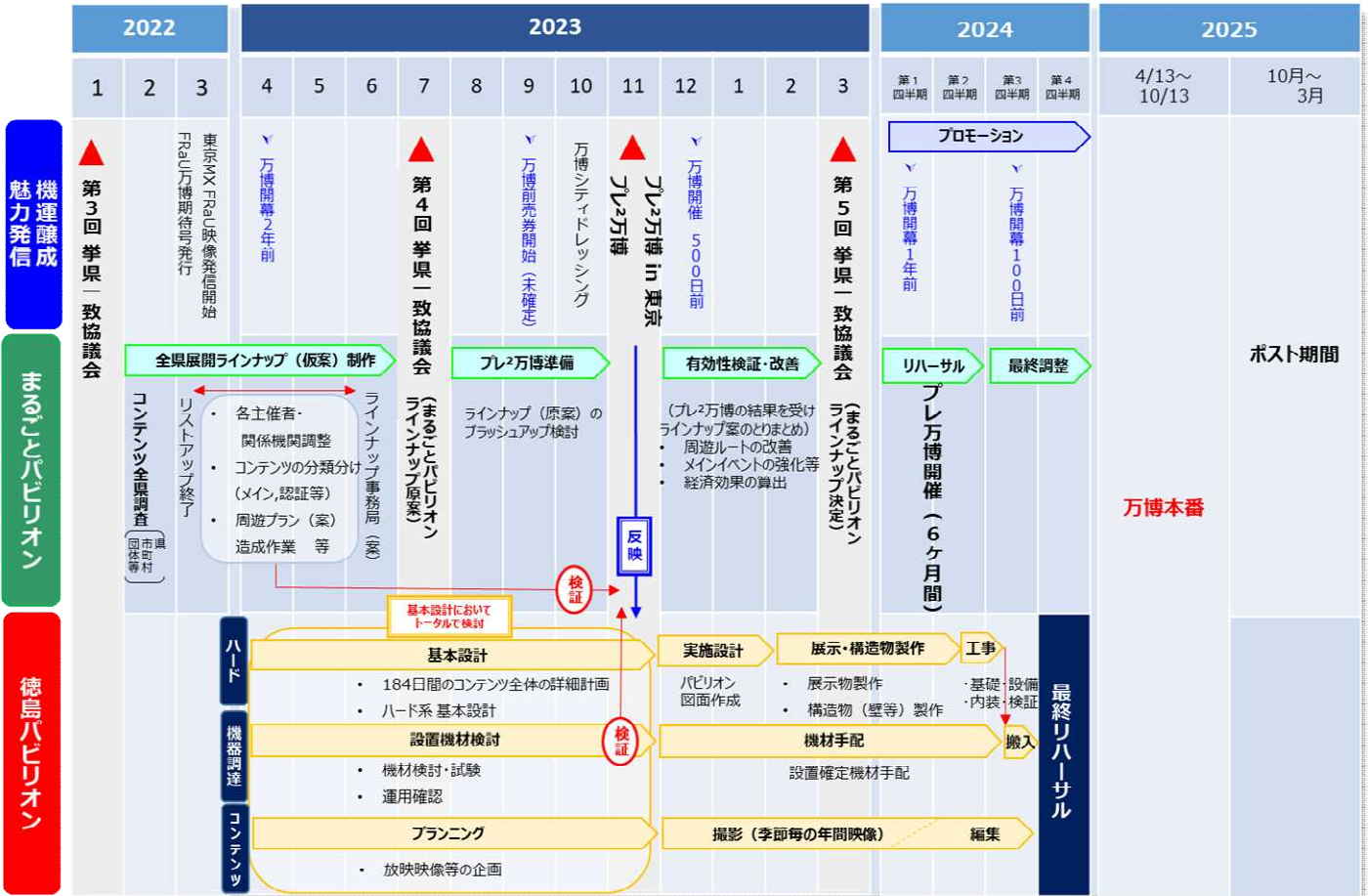
- ・ Beyond 5Gを担う「次世代“光”」、8Kを活用した「遠隔医療」など、最先端技術による近未来の姿を提示
- ・ 世界初の「DMV」本格営業運行、デジタル技術を駆使した「スマート農林水産業」、「i-Construction」など、人口減少社会における持続可能な地域づくりの処方箋を提案

（3）リアルとバーチャルの融合で世界に発信

- ・ インターネット上の「バーチャルパビリオン」を活用し、万博開始前から本県の魅力を戦略的に先行発信し、いち早く世界との交流拡大を推進
- ・ ARやVR技術を駆使し、「リアル」と「バーチャル」の両面から、東京オリ・パラのレガシーである本県の豊かな食材や、世界に誇る「あわ文化」を実感できる場を展開

2025年「大阪・関西万博」で創出されたレガシーを、2030年「SDGs達成」に結びつけ、県民のいのち輝く「徳島の未来社会」をデザイン

2 徳島「まるごとパビリオン」進捗ロードマップ



第2章

関西。パビリオン内
「徳島。パビリオン」 出展計画

2

第2章 「徳島パビリオン」 出展計画

1 基本的な方針

「大阪・関西万博」とくしま拳県一致協議会をはじめ、県内外の叡智を結集し、「徳島パビリオン」が徳島へ「人・モノ・コト・情報」を誘導するゲートウェイ機能を発揮し、世界の一步先を行く「存在感」を示す会場展開を推進する。

・「世界展開ゲートウェイ」

「未来技術のショーケース・徳島」として多様なパビリオンが林立する万博会場で「存在感」を発揮

・「持続可能な未来社会モデル」の「発信ゲートウェイ」

「SDGs 先進県・徳島」の多様な取組みを学ぶ場として発信

・「インクルーシブ社会」への「ゲートウェイ」

誰一人取り残さない「総活躍・実践拠点」徳島へ、リアル・バーチャル両面で取組みを展開

・「シナジー創出ゲートウェイ」

民間企業、万博会場各パビリオン、万博本体催事などとの連携により、シナジー効果を創出

・「S (Sustainable)-T R I Pゲートウェイ」

古くから四国の玄関口として、多様な知恵や技能が集い循環する**持続可能な徳島をめぐる旅**を地域・時間軸で展開

1-1 関西パビリオン概要

構成府県：9府県 徳島県、和歌山県、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県(※1)、鳥取県、福井県(※2)、三重県(※2) >

※1：県単独のスペースを出展しない。 ※2：関西広域連合の連携団体から参画



1-2 関西パビリオン基本コンセプトとビジュアルイメージ

関西パビリオンの基本コンセプト

出展参加のテーマ

『いのち輝く関西悠久の歴史と現在』

出展参加でめざすもの

- 地域に息づく「いのち」と未来へと続く「いのち」の発信
関西各府県の生活環境、産業立地、観光・文化等の魅力を、各府県ごとの切り口で提示し、日本で最も長く息づき、根付いてきた地域の「いのち」の姿と、未来へと続く「いのち」の姿を日本・世界の人々に伝える。
- 関西各地へのゲートウェイ
来場者に関西地域での暮らし・仕事・楽しみを示すとともに、関西各地への来訪を促すゲートウェイ機能を担うことを目指す。

関西パビリオンの基本構成

- ① 関西全体を表現する展示スペース
関西パビリオンのエントランスとして、関西各府県を一体的に表現する展示スペース
- ② 出展参加府県による独自展示スペース
出展参加府県が来館者に訴求したいポイントに沿い、参加府県それぞれが趣向を凝らした展示を展開するスペース
- ③ WEBパビリオン
WEB上でもパビリオンを展開し、リアルパビリオンとも共鳴させ、可変自在な展示を展開する。

【遠景（昼間）】



【鳥瞰（夜間）】



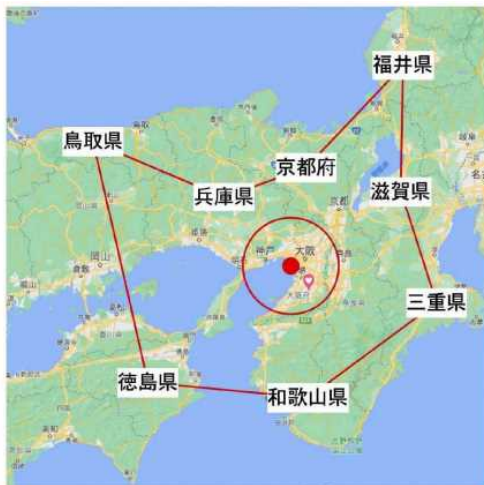
画像提供：関西広域連合

【エントランス】



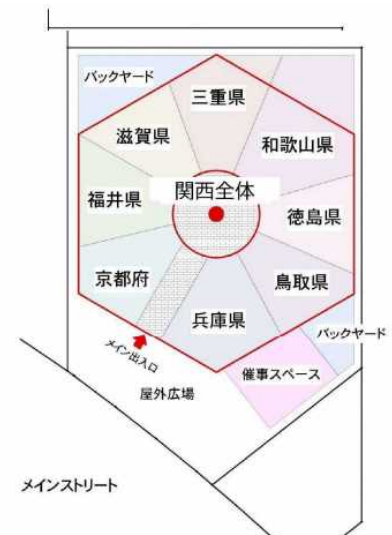
1-3 関西パビリオンレイアウトイメージ

関西パビリオンに参加する府県は、大阪・関西万博の開催地を中心として取り囲むように立地。その参加府県の地理や隣接関係を来館者が自然と感じとれるように、展示スペース内の並びを地理的配置で表現。また、中心で関西全体を表現する展示を展開することで関西を一体的にアピールする。



関西パビリオンに参加する府県は、大阪・関西万博の開催地を中心として取り囲むように立地しており、これらを地理的な並びで配置

画像提供：関西広域連合



来場者は、メイン出入口から中央の関西スペースに入り、そこから訪れたい府県の展示スペースに引き込まれるレイアウトとする

2 テーマ

GATEWAY (ゲートウェイ) ～ to Tokushima, to Sustainable Future ～

3 重点ターゲット・目標

3-1 目標

「展示の来場者目標」は、徳島パビリオン展示のスペース約130㎡を基本に、会期時間・各コンテンツの滞在時間や入れ替わり回数を想定して試算し、会期中に約42万人の来場を目指す。

徳島パビリオン展示 約130㎡

1日・約2,300人×184日 = 約42万人 (最大)

3-2 重点ターゲット

○子供を含めたファミリー

- ・ 航空機利用者 (東日本、九州等)

○ビジネス

- ・ 航空機利用者 (東日本、九州等)
- ・ バス利用 (関西・中四国等)

○インバウンド

- ・ 訪日団体旅行 →東アジア
- ・ FIT (海外個人旅行) →欧米
- ・ MICE
- ・ 出展関係者

4 コンテンツ

いのち・働き・にぎわいを創造！未来技術のショーケース

- **Beyond 5Gを担う「次世代"光"」、8Kを活用した最先端の医療技術等、「新たな未来」への「トビラ」を開く展示**
 - ・ pLEDによる空中タッチの技術等、次世代"光"を活用した展開
 - ・ 8K医療、スマート農林水産業、i-Construction等の遠隔体験
- **「まるごとパビリオン」と連携した技術の新分野進出、商談会等「ビジネスマッチングや、イノベーション」の誘発**
 - ・ 進取の気質を活かした徳島発の商品・技術や伝統産業のビジネスマッチング
 - ・ 県内の高等教育機関の先端技術体験と食糧危機等の課題解決への応用機会の創出
- **「まるごとパビリオン」と連携した旅行商品PRに繋がる徳島の自然、祭り等「バーチャル観光体験」を展開**
 - ・ AR・VRなど、XRの技術と各自のデバイスを活用した地域コンテンツ体験
 - ・ リアルタイムVSR等の技術を活用したバーチャル観光体験

地球に優しいSDGsライフスタイルの提案

- **エシカル消費、水素グリッド等、「SDGs先進県・徳島モデル」の体験・発信**
 - ・ 阿波藍、県産材の活用等、徳島に息づく伝統文化と暮らしを感じる会場展開
 - ・ 会場の展示物等を万博のレガシーとして再活用し資源を循環
 - ・ 水素グリッド、ゼロウェイスト等、地球規模の課題に対応する未来を体感
- **SDGsと結びついた「暮らし」から生まれる「食文化」を発信**
 - ・ 産地直送の県産品とストーリーの発信による食・物産の発信展開
 - ・ 食用コオロギの活用等とテクノロジーによりSDGs達成に貢献する新たな「食」の体験

リアル × バーチャル × 未来技術 によるシナジー展開

- **「あわ文化」、「アニメ」、「DMV」等をの認知向上や体験による来訪の期待感を醸成**
 - ・ 徳島の多彩な地域の特色を発信する季節に合わせた企画展の展開
- **県内企業の出展、「空飛ぶクルマ」や催事、企業パビリオン等と連携し相乗効果を創出**
 - ・ 催事スペースを活用した会場パビリオンとの連携催事の実施
- **リアルとバーチャルが融合し、多様な個性が尊重されるダイバーシティ先導モデルとして、あらゆる来訪者が交流可能**
 - ・ 多様な状況に配慮したユニバーサルデザインによる会場構成
 - ・ メタバースを活用した「徳島パビリオン・デジタルツイン」によりあらゆる主体が参画するインクルーシブ展開

5 展示内容

5-1 展示の体験構成

「S-TRIP」を体験コンセプトに、徳島が育んできた伝統から今（リアルタイム）、そして、「人・モノ・コト・情報」が循環することで実現させていく「サステナブルな未来」を表現

5-2 展示レイアウトと動線

スペースを一方向で順路を回る動線とし、パーソナライズな体験から複数の方まで体験できる構成



エントランス

【滞在15分】※エントランス、メインフロアあわせて

➤ **ホログラムによるコンセプトワード**

パビリオンのテーマ「GATEWAY ～to Tokushima , to sustainable future」をホログラムで展開

➤ **GATEWAYを想起させるドア型モニター**

来場者がGATEWAYを想起させる扉を開くことで、透過モニターを通して、阿波おどりや四国遍路の「お接待」に象徴される「おもてなし文化」を体感していただくゾーンとして展開

➤ **地域コンテンツPRビジョン**

両サイドの壁にビジョンを設置し、工芸品、名産品等の地域コンテンツのPR映像を放映、他エリアと連動し、期間毎に展示替えを実施

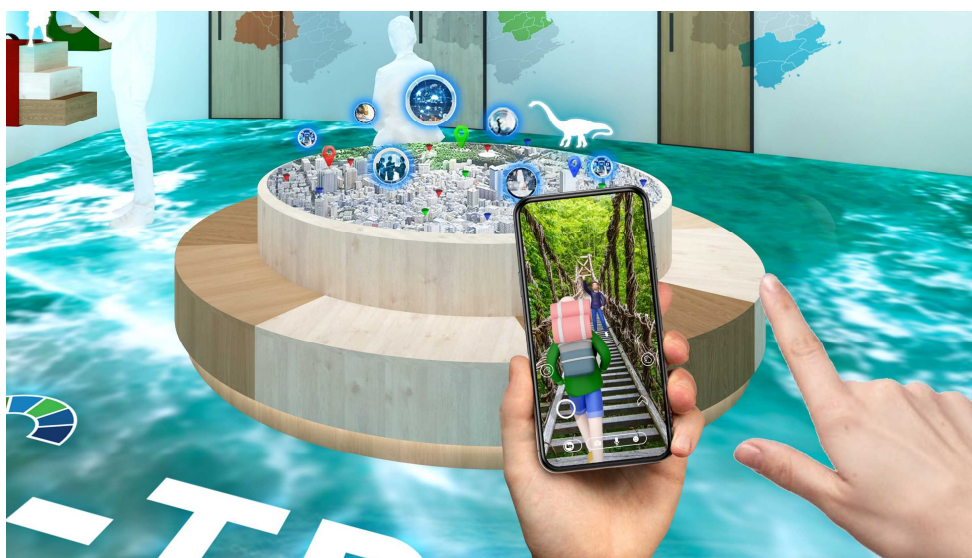
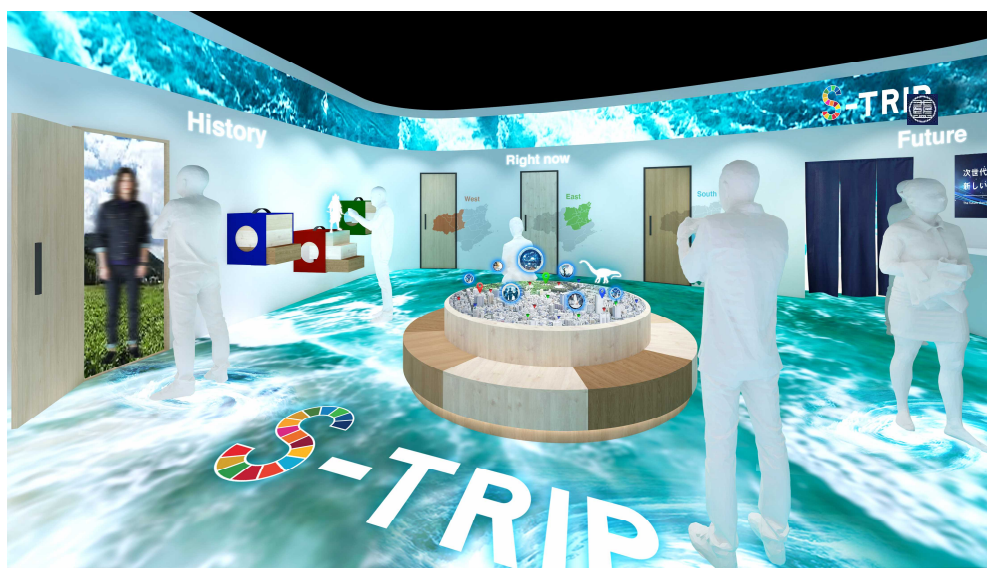


メインフロア 1

【滞在15分】※エントランス、メインフロアあわせて

エントランスを抜けると、コンセプトである「S-TRIP」を時系列でコンテンツを展開
来場者に徳島の過去（伝統・歴史）→現在→未来を体感

- **徳島伝統文化職人紹介用ドア型モニター**
自然、伝統を守る人を等身大でコンタクト出来るコーナーを設置
- **遊山箱型情報ステーション**
遊山箱の中において、ARの設置やNFTの取得など、
来場者自身のデバイスにより「伝統文化」を体感できる情報ステーション
- **メタバース活用による市町村等の地域の企画展示**
企画展示エリアにおいては、来場者が自身のデバイスを活用し、
メタバース空間上の「徳島デジタルツイン」やARにより、市町村をはじめ
地域コンテンツを体感



メインフロア 2

【滞在15分】※エントランス、メインフロアあわせて

➤ 「Beyond 5G」の最先端技術を紹介

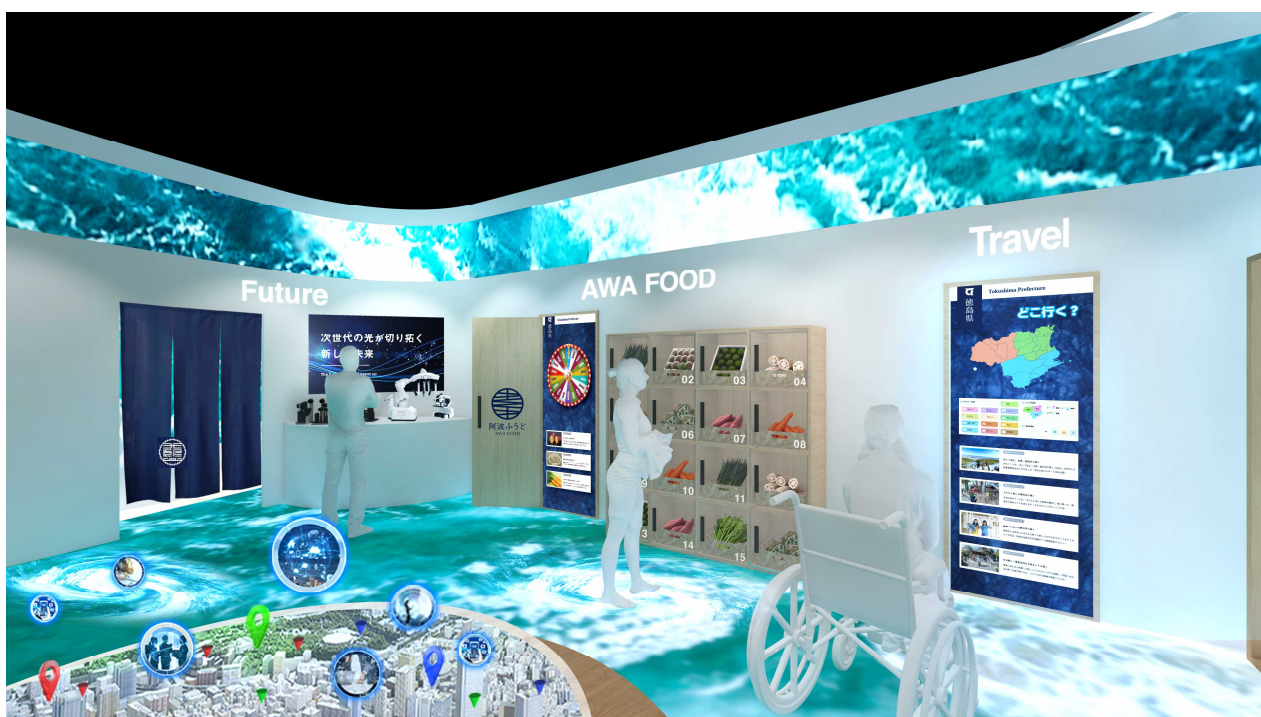
次世代“光”や8Kを活用した遠隔医療など、徳島で先駆的に取り組む技術を展示

➤ 徳島名産食材おもてなしコンテンツ

徳島パビリオンのお土産として、地域の暮らしに裏付けされた旬の農作物等のお接待スペースを設置し、フードツーリズムと連携

➤ 徳島誘客タッチパネル

最後は、徳島パビリオンを疑似体験した後に、徳島県ツアーが可能なコーナーを設置。AI案内の設置など、GATEWAYであるパビリオンを体感いただいた来場者が、最後に実際の徳島の旅をその場で設計



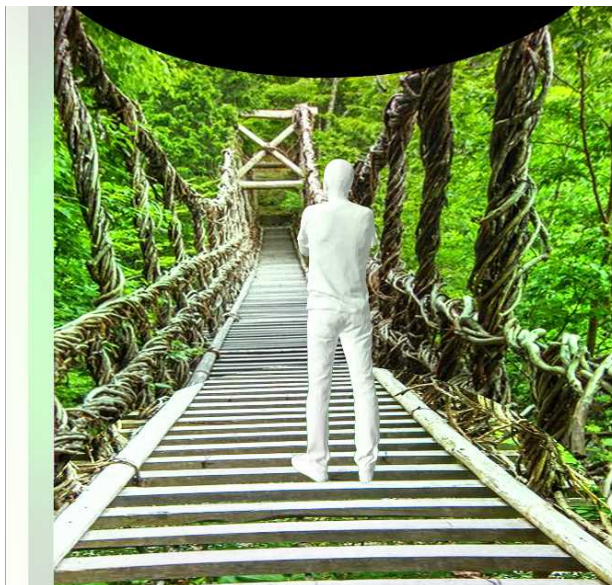
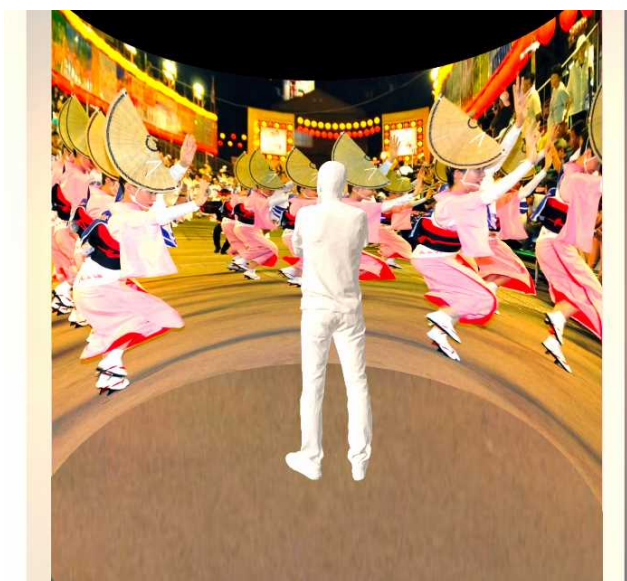
バーチャル観光エリア（徳島の“今”体験）

【滞在 1エリア1組 3分】

➤ **VSR（仮想超解像度）観光**

【現在】

県内を「東部」「南部」「西部」の3エリアに分け、世界初リアルタイムVSRを活用し徳島の「今」を体感できる没入型バーチャル観光を展開（阿波おどり、渦潮、大塚国際美術館など）



常設展（徳島の“過去・現在・未来”体験）

【滞在 1組 5分】

➤ **360° 8 Kシアター（タイムトラベルツアー）**

【過去・現在・未来】

1950年から2025年、SDGs達成目標の2030年を経て、カーボンニュートラルの目標2050年まで、過去から現在、未来技術が活用される徳島の「未来の姿」までをパノラマで紹介。

- 通信の未来（pLED・次世代“光”）、農業(食)の未来（コオロギ食、スマート農林水産業）、いのちの未来（遠隔医療）などを映像化
- メインフロアではリアル体験



6 会場内催事への出展

本県では、関西パビリオン内の催事スペースや夢洲内の各催事スペースを活用した催事を計画。

県による出展のほか、県内市町村や文化団体をはじめとする各種団体、教育機関など様々な機関による参加が見込まれ、博覧会協会、関西広域連合における各催事スペースの取り扱いが決定次第、計画を具体化する。

【催事のイメージ】

- ① 関西パビリオン内の催事スペースにおけるイベント
(例) 阿波人形浄瑠璃の公演
阿波藍を使った藍染め体験ワークショップ
- ② 万博本体の催事スペースでのイベント
(例) 阿波おどり
- ③ 他のパビリオンと連携したイベント
(例) 食に関する連携イベント



2025年日本国際博覧会協会作成資料より引用

7 パビリオン運営計画

「徳島パビリオン」の運営に当たっては、関西パビリオン全体の運営に関する取り扱いや、夢洲の各エリアで開催される催事内容等にも留意し、運営計画としては、次のような内容をもとに、安全・安心なパビリオン運営に向けた計画を別途取りまとめる。

1 入場ルール化と情報発信

混雑緩和を図るため、パビリオン内に入場する人数の調整を検討する。
(個人・家族・団体・インバウンド他)
国際博覧会協会や関西広域連合と連携し、パビリオンの混雑状況などを発信する。

2 物販や配布物の対応管理

開催期間中に出展する、各市町村からの物販品を管理する。
また、県を中心に各市町村からの配布物等を管理する。

3 来場者サービス・ユニバーサルサービス

家族連れや小さなお子様、お年寄りやお身体の不自由な方々、海外からの来場者などに対し、きめ細かいサービスを提供する。

4 情報提供サービス

徳島県への交通機関や宿泊、ツーリズムなどの情報を提供する。

5 賓客接遇

パビリオンへの賓客に対し、関係機関と十分に連携して、ふさわしい接遇を行う。

6 警備

パビリオン運営及び催事開催に当たり、従事する人員や展示物に関する事故・事件・災害などに関し、予め自主警備体制を確立するなど、関係機関と連携するとともに、適切な体制を整える。

7 消防・防災

会場内での災害を未然に防止するとともに、災害発生時を想定した独自の防災体制を確立し関係機関と連携する。事前から防災計画を確立し、避難誘導・防災訓練などを通じて周知徹底する。

8 医療・救急・衛生

けが人や病人が発生した場合に迅速な対応が可能な体制を構築する。
関係機関での応急処置や診療施設との連携など把握し、必要な措置を講じる。

9 衛生・ゴミ管理

来場者が会場内で快適な時間を過ごせるよう、清掃とゴミの管理を行う。
関係機関と連携して清掃計画を策定し、会場内の具体的なゴミ管理・回収のための体制を確保する。

7 パビリオン運営計画

1.0 会場内物流

国際博覧会協会や関係機関のガイドラインに準じた搬入出方法に対応し、あらかじめ物流計画を作成して適切な対応を行う。

1.1 保険

徳島パビリオンの運営や関連催事において、関係者が安心して業務に従事できるよう、労働者災害補償保険や社会保険のほか、第三者への損害賠償責任を補償する保険等に加入する。

また、パビリオン・展示物の財物損害を補償する保険についても適切に加入する。

1.2 持続可能に配慮した運営

エンカル消費の実践や、ゼロ・ウェイストを目標としたゴミ分別など、SDGsにつながる運営を行う。

1.3 ボランティア対応

徳島パビリオン運営や関連催事の円滑な運営に向けてボランティアの確保を検討する。

1.4 運営体制図

関西広域連合と連携・協議の上、決定する。

第3章

徳島『まるごとパビリオン』

(全県展開)

計画

3

第3章 徳島『まるごとパビリオン』（全県展開）計画

1 基本的な方針

徳島パビリオンの展示コンテンツと連携し、徳島全体が“まるごと”コンテンツであるとのコンセプトのもと、万博会場から徳島へ、「人・モノ・コト・情報」の流れを受け入れ、社会経済活動の活性化やSDGs推進を加速する誰一人取り残さない「おもてなし拠点」として、古くから来訪者を迎えてきた「四国の玄関口」としての進取の気質を発揮し、「**くらし**」と「**自然**」を**持続可能とする気づきを得る「S-T R I P」を全県展開**。そして、「サステナブルツーリズムといえば徳島」としてのレガシーを創出。

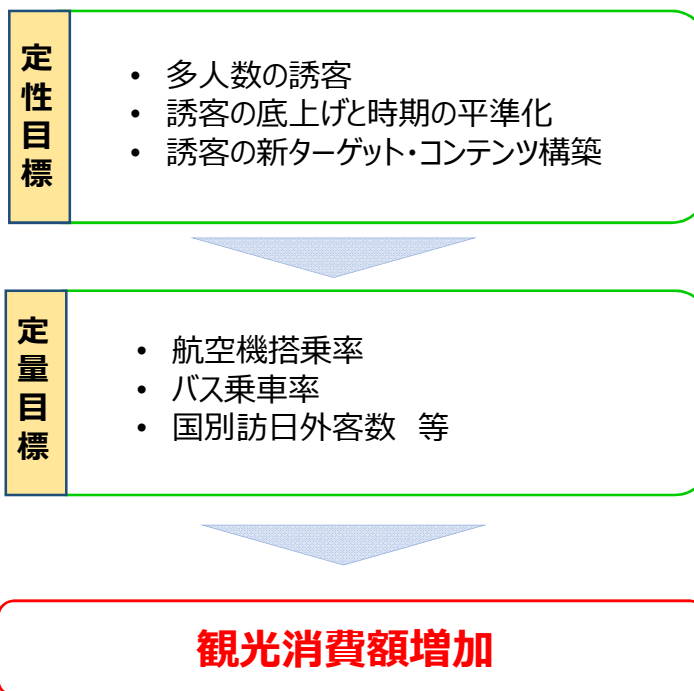
2 テーマ

多様な人々をSDGsでおもてなしする「『お接待』文化・徳島」をまるごと体感

3 重点ターゲット・目標

3-1 目標

【基礎指標】 宿泊者230万人+a 海外10万人+a



3-2 重点ターゲット

○ファミリー

- 航空機利用者（東日本、九州等）

○ビジネス（教育旅行を含む）

- 航空機利用者（東日本、九州等）
- バス利用（関西・中四国等）

○インバウンド

- 訪日団体旅行 →東アジア
- FIT（海外個人旅行） →欧米
- MICE
- 出展関係者

未来・新技術の実装フィールド

▶ 「未来を感じる」体験コンテンツ展開

① 徳島発！未来技術の「見える化」を体感

マイクロ光コムをはじめとする「Beyond 5G」関連技術を実装・実演

- ・ 8K映像発信 ▶ 県内各地域から8K映像をリアルタイム伝送
- ・ 遠隔医療 ▶ 8K遠隔医療のデモンストレーション・体験
- ・ i-Construction ▶ 災害対応用重機の5Gリモートオペレーションのデモンストレーション
- ・ テラヘルツ ▶ 光・電波による「超高速通信」を研究最前線で体験
- ・ スマート農林水産業 ▶ AIスマート農業等の未来技術を発信

② 高等教育機関による科学体感フェスティバル

- ・ 大豆とコオロギを用いた循環型の「植物昆虫工場」体験
- ・ 「デロリアン系飛べる自動車」の展示、試乗
- ・ 植物工場で藍栽培の展示イベント・藍染体験
- ・ UV_LEDを用いた感染症対策の展示
- ・ 新規肥料を活用した実験砂漠の農地変換の展示

③ 「水素グリッド構想」による水素・脱炭素関連施設への誘客促進

水素モビリティの導入・拡大をはじめ、水素社会に向けた「脱炭素ゾーン」として国内外から徳島への誘客を推進

④ 「とくしま4K+NEXT～4K・VR徳島映画祭」

- ・ ノミネート作品の上映VR、AR等の先端技術体験
- ・ 映像放送関係のトップランナーセミナー、高等教育機関と連携したワークショップ

▶ 通信環境充実(Wi-Fi,5G)でワーケーション等「長期滞在の促進」

① オーダーメイド型の「アワーケーション」の推進

継続的に地域との交流を創出する

- ・ 万博出展関係者向けのアクティビティ
- ・ キャンプを中心としたファミリーケーション
- ・ インバウンド向けの伝統文化体験などの活用

② 徳島発の取組みを活かした滞在・移住促進

「キュウリロボット」や「LED照射技術」などの技術開発による、地域の産業振興と移住促進を図る「未来技術」・「食」に関する滞在コンテンツ創出と移住交流イベントの実施

③ 「サステナブル集落」の創造

デジタル技術の活用などを通じ持続可能な集落づくりと魅力発信

未来・新技術の実装フィールド

➤ 移動手段の観光コンテンツ化による「快適な周遊」

- ① **DMVによるオリジナル移動体験のコンテンツ化**
「世界にここだけ」の体験を組み込んだパッケージツアー
- ② **大鳴門橋の自転車道化を見据えたサイクルツーリズム展開**
鳴門-淡路・自転車道・連結を見据えたルート構成
- ③ **水都・徳島ならではの水上タクシー運行**
吉野川の恵みによる水路で観光拠点同士を結ぶ周遊

進取の気質に富む観光・ビジネス展開

➤ あわ文化、サブカルチャー等「にぎわいコンテンツ」による誘客促進

- ① **とくしま「まるごとマチ★アソビ」として、県内全体で関連イベントを開催**
 - ・ DMVや高速バス路線などのアニメラッピング
 - ・ 各ホテルで漫画やアニメによる「デコレーションルーム」の実施
- ② **各地域の象徴となる誘客イベント開催**
 - ・ 各農村舞台の連携イベント、伝承される花火、祭りの復活など
- ③ **「あわ文化」発信・地域交流活性化の展開**
 - ・ 多彩な演目・座による「阿波人形浄瑠璃セレクション」
 - ・ 神代踊りなど無形遺産をはじめとする「徳島民俗芸能フェスティバル」
 - ・ AR技術を駆使した新たな郷土芸術を創造
 - ・ 四国遍路に象徴される脈々と受け継がれる伝統文化の体験
- ④ **「食の博覧会」の開催**
 - ・ 徳島の食を全国にPRするとともに、県内事業者と全国から出展者が集まり、サステナブルフードメニュー発表
- ⑤ **万博テーマ関連イベントの開催と認証**
 - ・ 自然エネルギー、自然環境保全活動などとアート等のコラボによるイベントの開催
 - ・ ワールドマスタースゲームズ（2027）を見据えた幅広い世代のスポーツイベントなどのロングランイベントを開催

➤ リアル・バーチャルでの商談会、体験視察等、「新ビジネス」展開

- ① **「徳島ビジネスチャレンジメッセ」の新展開**
「徳島パビリオン」と連携し、リアル会場とオンライン会場とのハイブリッド開催
- ② **「食の輸出」による誘客・海外ビジネスの推進**
 - ・ 多言語PR映像、展示会出展などによる県産農林水産物の「海外プロモーション」
 - ・ 海外バイヤー招へいによる本県での商談会の開催による食のビジネス展開
- ③ **サテライトオフィス誘致の新展開**
国内外の出展関係者等へのアプローチによるサテライトオフィス誘致

進取の気質に富む観光・ビジネス展開

➤ 万博会場と連携し、国際会議、教育旅行等の「MICE等誘致」

① 教育旅行誘致の推進

「SDGs」目標別に分類した「営業ツール」制作と旅行会社セールスの実施

② 国内会議・各種教育イベント・講演

食育等の国内MICE等誘致（県、コンベンション誘致推進協議会等）

③ 国際会議

未来・宇宙技術等の国際MICE誘致（県、大学、コンベンション誘致推進協議会等）

SDGsが息づく徳島発のライフスタイルの体験

➤ 来訪者と地域が交流しSDGsを巡り・学ぶ旅「S-TRIP」を強力展開

① サステナブルツーリズムの強力展開

徳島の強みを活かした「サステナブル・ツーリズムの実装」とSDGsをフックとした「新たな観光ブランディング」と観光DXの推進

② 持続可能な観光地の国際認証体制の推進

旅行者がサステナブルな観光地の判断指標となる国際認証を取得する自治体へのサポートによる地域の価値向上

③ ESD（Education for Sustainable Development）コンテンツの充実展開

世界農業遺産をはじめSDGsを体感できるコンテンツ開発と教育旅行の体験フィールドワークをはじめESDコンテンツとして強化・拡充

➤ 地域に継承された伝統を守る生産者、ものづくりマイスターなど徳島が誇る「人」を巡る旅

① SDGs農村生産者体験ツアー展開

徳島の豊かな食を巡る生産者ツアーを実施
SDGsに取り組む産地や生産者をテーマとした、意見交換や作業体験

② オープンファクトリーの展開

阿波藍をはじめ徳島のものづくりを継承する現代のマイスターの技を巡る観光や県内企業の視察の周遊コンテンツ化

➤ 豊かな自然が育む「阿波ふうど」を、食の生産から消費までSDGs視点の「食メニュー」を発信・展開

① 阿波ふうどを体感できる場「まるごと徳島ダイニング」の展開

生産から消費までSDGsの視点を取り入れた「農林水産業」や「食」の魅力に触れる体験コンテンツの造成・PR（急傾斜地農耕、食育活動動画、ガストロノミー、農泊など）

② フードダイバーシティの展開

インバウンド増加を見据え、ベジタリアンやハラールなど「食の多様性」に対応した飲食店の拡大や商品開発の促進

③ サステナブルフードの魅力発信

「阿波地美栄」をはじめ豊かな自然に育まれたサステナブルフードの魅力を発信し、提供する飲食店や宿泊施設の拡大

リアル×バーチャル×未来技術によるシナジー展開

➤ MaaSでの2次交通充実等,未来技術による「アクセスの利便性向上」

① 「とくしま a a S構築」による安心、快適、簡単周遊

「安心、快適、簡単」にスマホ一つで県内を周遊できるよう、異なる交通事業者が連携し、「徳島ならではのM a a S」を構築

② 「新たな海上交通」の導入

本県と関西を結ぶ「新たな交通ネットワーク」の構築を目指し、「付加価値をつけた海上交通」の導入に向けた取り組みを推進

※令和2年度、令和3年度には高速船を利用した運航を実証

③ シャトルバス・チャーター便の運行

- ・ 徳島パビリオン-徳島を結ぶ割引等のインセンティブを設定したシャトルバスの運行
- ・ 旅行商品との組み合わせによる航空チャーター便、限定便の運行

➤ 「メタバース上での観光・文化体験等」コンテンツ展開

① メタバース「とくしまバーチャルパビリオン」による先行魅力発信

水素社会の普及啓発や万博本体の「バーチャル万博」との連携やリアル来場が困難な方々へのまるごとパビリオン体験を展開

② とくしまバーチャル見本市

万博本体の「バーチャル万博」と連動した徳島の企業が参加するバーチャル見本市の開催

③ 全県メタバース構想の推進

「インクルーシブ万博」を実現する「とくしまバーチャルパビリオン」全県展開による「徳島デジタルツイン」の創造

5 誘客に向けた展開

旅行商品造成

▶「EXPO旅行商品」の造成

「大阪・関西万博」会場を訪れる訪日外国人を本県へ誘導し、旅行会社へのセールス等により、「EXPO旅行商品」の造成を促進※関西観光本部など「広域連携DMO」と連携

インセンティブの設定

▶「まるごとパビリオン・インセンティブ」の造成

B to B、B to Cの各種インセンティブを設定し来訪を促進

①「観光ポイントクーポン」を設定

ポイント制・徳島の観光を紹介したフライヤー等の広報物にQRコードを設置し、アクセスによりポイント付与

② 旅行会社・個人旅行者向け助成制度

旅行会社や個人旅行者が徳島に来るための助成制度を検討・運用

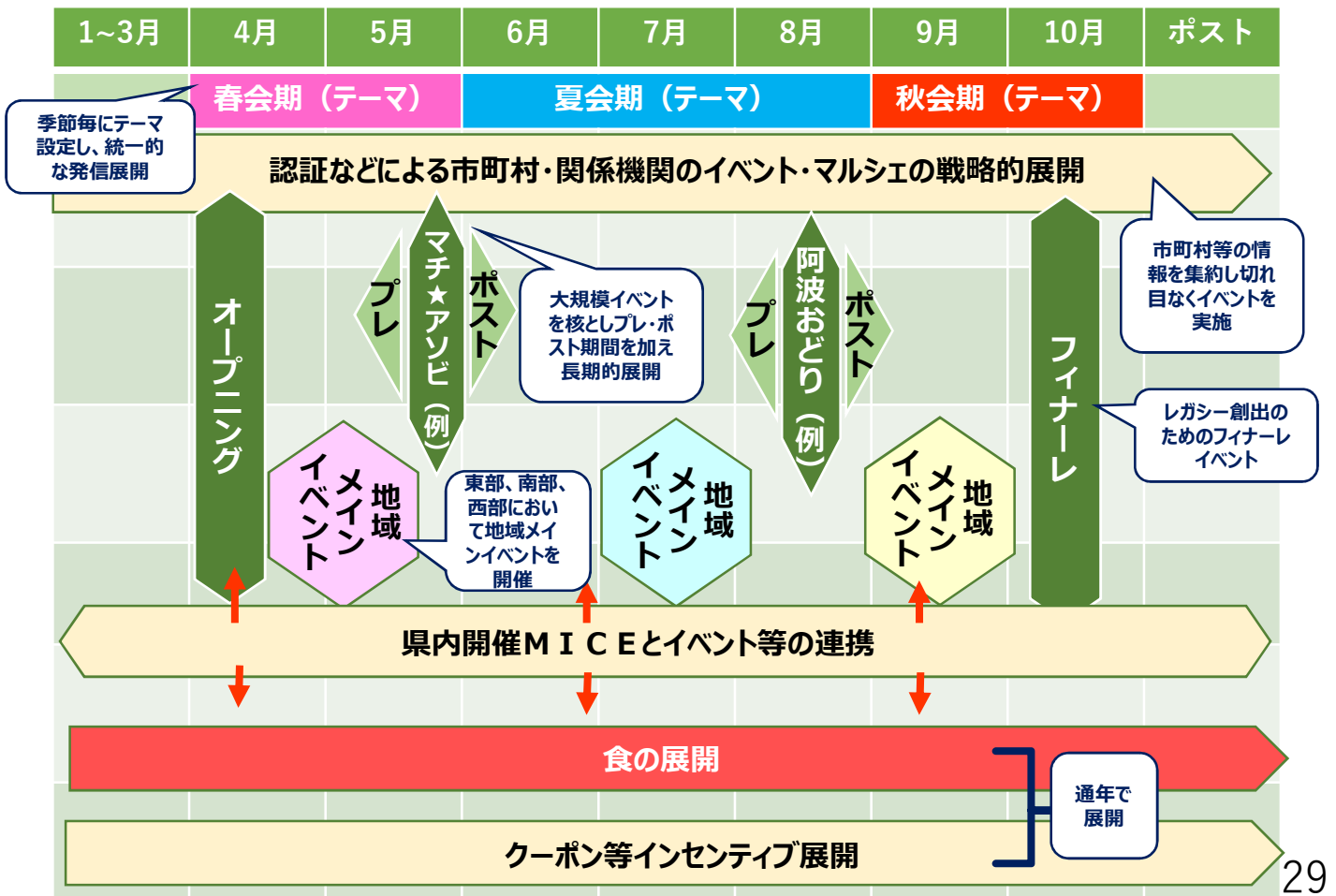
③ 訪日外国人観光客フリーパス

関西空港を利用する訪日観光客が、徳島を周遊できるフリーパスチケットを新たに発売

④「徳島まるごとパビリオンパスポート（例）」の発行

来県者へくまなく県内周遊を促すため、「徳島まるごとパビリオンパスポート」を発行し、市町村（地域）別の飲食店スタンプラリー、レンタカーの割引、季節のプレゼント企画などのインセンティブを設定

6 まるごとパビリオンコンテンツカレンダーの展開イメージ



7 まるごとパビリオンラインナップ確定にむけての展開

7-1 プレ²万博の展開による実証（2023）

まるごとパビリオンのコンテンツ候補をブラッシュアップし、検証する場として展開

【展開例】

- 徳島の事業者によるテクノロジーを体験
- 帆船を活用し新たな海上交通の実証運航体験航海や内覧会など
徳島の観光を巡るツアーの実施
- 世界初のDMV体験ツアー
- コンテンツ実証により、まるごとパビリオンラインナップに反映

7-2 プレ万博での展開（2024）

- プレ²万博での検証結果を反映し、万博本番を想定したまるごとパビリオンラインナップを一気通貫で実施（リハーサル）
- プレ万博を実施し、運営面での課題抽出・修正
- 万博プレイベント及び開催中イベントとして、徳島県のPR車両による全国展開等、徳島及び万博への来場を促進

7-3 まるごとパビリオンに向けた展開

➤ 拳県一致体制で徳島県を184日間楽しむ「まるごとパビリオン」化

- ① 2023年度より、駅、空港、バスターミナルなど、徳島の主要スポットで「まるごとパビリオン」として来訪者に一体感を示すシティドレッシングを実施
- ② 市町村等開催マルシェの全県での計画的開催
- ③ 阿波おどり、マチ★アソビ等、大規模イベントのプレ・ポスト展開による長期化
- ④ オープニング・フィナーレイベントの実施

➤ インクルーシブ受け入れ体制の推進

- ① 駅前等において、期間限定アンテナショップとして、土産物から県産品販売、軽食の提供、観光案内まで総合的に実施する「ワンストップ型」店舗の設置
- ② インバウンドおもてなし体制の充実強化
 - 観光アプリ活用による多言語化
 - 観光施設のバリアフリー化
 - ピクトグラムの活用等による視認性の向上
 - インバウンド受け入れ事業者の増加のための旅行プランの多言語掲載、ガイドの多言語化や伝統文化等の説明力向上への支援

8 まるごとパビリオンロードマップ

観光・ビジネス全般、食、交通、イベントの主要なものを掲載

調整中

サブカテゴリ	タイトル	取組内容	2022		2023					2024										2025 本会期												
			10月	12月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月					
			モデル化検討 予算化		モデル化・プレ実装						検証 イベント	プレまるごとパビリオン										徳島まるごとパビリオン (徳島全県下フィールド)										
		全体スケジュール										最終調整	万博本番のリハーサル的運用										大阪関西万博のパーチャル万博と連携した運用									
観光キャンペーン	観光ブランディング	徳島の強みを活かした「サステナブル・ツーリズムの実装」とSDGsをフックとした「新たな観光ブランディング」により、観光誘客を図る。 (例) サステナブルコンテンツの創出、観光DX ※徳島県DMO観光推進協議会と連携	・データ分析 ・動画制作 ・予算化		・サステナブルコンテンツの創出 ・観光DXによるブランディング ・誘客に向けたセールス等							・観光DXを活用した魅力発信 ・誘客に向けたセールス等															・「S-TRIP」による本県への誘客本格展開					
MICE	MICE誘致	「大阪・関西万博」を見据え、コンベンション（全国大会等）の誘致活動に加え、大きな経済波及効果が期待できる「国際MICE（国際会議など）」の誘致活動を行う。 ※とくしまコンベンション誘致促進部会（事務局：県観光協会）と連携	・ターゲット検討 ・予算化		・「(国際)MICE」誘致活動 ・インバウンド誘客の強化							・「(国際)MICE」の誘致活動 ・セールス内容の見直し ※「(国際)MICE」開催														・「(国際)MICE」による本県への誘客本格展開						
旅行プラン	旅行商品達成	「大阪・関西万博」会場を訪れる訪日外国人を本県へ誘導できるよう、関西観光本県と連携し、旅行会社へのセールス等により、「EXPO旅行商品」の達成を促進する。 ※関西観光本県など（広域連携DMO）と連携	・ニーズ調査 ・予算化		・旅行会社へのセールス ・ファムツアーの実施 ・「EXPO旅行商品」の達成							・旅行会社へのセールス ・ファムツアーの実施 ・「EXPO旅行商品」の達成														・「EXPO旅行商品」による本県への誘客本格展開						
旅行プラン	旅行商品達成	「大阪・関西万博」を機に、本県が教育旅行の行程に組み込まれるよう、「SDGs」目標別に分類した「営業ツール」の制作し、旅行会社へセールス等を行う。 ※地域連携DMOと連携	・ターゲット検討 ・営業ツール制作 ・予算化		・営業ツール(PR動画含)を活用し、旅行会社へのセールス ・本県観光の魅力発信							・営業ツールの見直し（更新） ・旅行会社へのセールス ・本県観光の魅力発信														・「教育旅行」による本県への誘客本格展開						
周遊割引	フリーパス	インバウンド再開に合わせて、訪日外国人観光客を本県へ誘導できるよう、関西圏と本県とを、公共交通機関を利用して移動できるお得な「フリーパス」を達成する。 ※公共交通機関等と連携	・フリーパスの達成 ・周知広報 ・予算化		・フリーパス利用による訪日外国人の観光客の誘客 ・フリーパスの充実（利便性向上）							・フリーパス利用促進キャンペーン ・フリーパスの充実（利便性向上）														・「フリーパス」利用による本県への誘客本格展開						
食メニュー	阿波ふどうを発信・体感できる場の創出	生産から消費までSDGs視点で、2大都市圏及び県内での県産食材の魅力発信・プロモーションの展開（魅力発信イベント・販路拡大セミナー・商談会・阿波ふどうマルシェ開催、メニューキャンペーン・阿波ふどうフェア実施）	モデル化検討 予算化		実装体制モデル構築 飲食店ネットワーク形成 市場・量販店の連携強化							実装体制強化 魅力発信プロモーションの強化 「食」による人の流れの創出														フードダイバーシティに対応した「食へ行きたい徳島」の本格展開						
	万博から徳島への人の受入れ体制の整備	県内へのインバウンド増加を見据え、ベジタリアンやハラールなど「食の多様性」に対応した飲食店の拡大や商品開発の促進（対応メニュー料理講習会・メニューキャンペーン実施、多言語対応PR資料等作成）	モデル化検討 予算化		受入れ体制モデル化 環境整備							受入れ体制整備強化 情報発信・プロモーションの実施 「食の多様性」に応える誘客													フードダイバーシティに対応した「食へ行きたい徳島」の本格展開							
	サステナブルフード「阿波地美栄」の魅力発信	徳島の豊かな自然に育まれた野生鳥獣を食するサステナブルフード「阿波地美栄」の魅力発信し、提供する飲食店や宿泊施設の拡大や県内や農山漁村への誘客を促進する。（飲食店向けメニューキャンペーン実施、企業・大学等の食堂、学校給食での利用拡大、新商品開発支援）	モデル化検討 予算化		県内飲食店の拡大 企業・学校給食等の拡大 新商品開発支援								県内外の飲食店の拡大強化 阿波地美栄の機能性とSDGsの取組発信 新商品等のプロモーション													サステナブルフード「阿波地美栄」による農山漁村への誘客本格展開						
周遊割引 定額	「とくしまaas構築」による安心、快適、簡単周遊	「安心、快適、簡単」にスマホ一つで県内を周遊できるよう、「徳島ならではのaas」を構築する。	モデル化検討 予算化		モデル化・プレ実装							対象エリア・参画機関の拡大														万博期間運用						
イベント等	イベント等その他の取り組み	メインとなるイベント、未来技術の体験展開など、その他まるごとパビリオンコンテンツの展開	モデル化検討 予算化		モデル化・プレ実装							万博本番のリハーサル的運用														まるごとパビリオンコンテンツとして運用						

※随時見直し

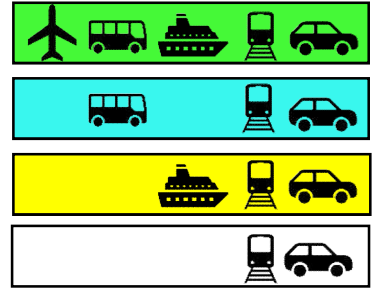
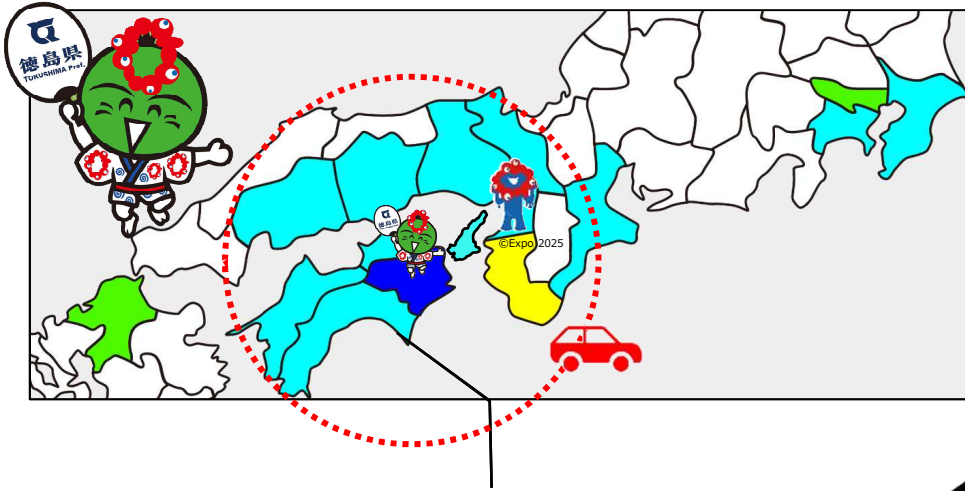
コンテンツターゲット整理

		ファミリー	ビジネス	インバウンド	
未来・新技術の 実装フィールド	「未来を感じる」体験コンテンツ展開				
	1	徳島発！未来技術の「見える化」を体感	○	○	
	2	高等教育機関による科学体感フェスティバル	○		
	3	「水素グリッド構想」による水素・脱炭素関連施設への誘客促進		○	○
	4	「とくしま4K+NEXT～4K・VR徳島映画祭」		○	
	通信環境充実(Wi-Fi,5G)でワーケーション等「長期滞在の促進」				
	1	オーダーメイド型の「ワーケーション」の推進	○	○	○
	2	徳島発の取組みを活かした滞在・移住促進	○	○	○
	3	「サステナブル集落」の創造	○		○
	移動自体の観光コンテンツ化による「快適な周遊」				
	1	DMVによるオリジナル移動体験のコンテンツ化	○		○
	2	大鳴門橋の自転車道化を見据えたサイクルツーリズム展開	○		○
	3	水都・徳島ならではの水上タクシー運行	○		○
	進取の 気質に 富む 観光・ ビジネス 展開	あわ文化、サブカルチャー等「にぎわいコンテンツ」による誘客促進			
1		とくしま「まるごとマチ★アソビ」として、県内全体で関連イベントを開催	○		○
2		各地域の象徴となるイベントの展開	○		○
3		「あわ文化」発信・地域交流活性化の展開	○		○
4		「食の博覧会」の開催		○	
5		万博テーマ関連イベントの開催と認証	○	○	
リアル・バーチャルでの商談会、体験視察等、「新ビジネス」展開					
1		「徳島ビジネスチャレンジメッセ」の新展開		○	
2		「食の輸出」による誘客・海外ビジネスの推進		○	
3		サテライトオフィスの誘致の万博展開		○	
万博会場と連携し、国際会議、教育旅行等の「MICE等誘致」					
1		教育旅行誘致の推進	/	/	/
2		国内会議・各種教育イベント・講演	/	/	/
3		国際会議	/	/	/

コンテンツターゲット整理

		ファミリー	ビジネス	インバウンド	
SDGsが息づく徳島ならではのライフスタイルの体験	来訪者と地域が交流しSDGsを巡り・学ぶ旅「S-TRIP」を強力展開				
	1	サステナブルツーリズムの強力展開	○	○	○
	2	持続可能な観光地の国際認証体制の推進	○	○	○
	3	ESDコンテンツの充実展開	○	○	○
	地域に受け継がれた伝統を守る生産者、ものづくりマイスターなど徳島が誇る「人」を巡る旅の展開				
	1	SDGs農村生産者体験ツアー展開	○	○	○
	2	オープンファクトリーの展開		○	
	海山川豊かな自然が育む「阿波ふうど」を、食の生産から消費まで堪能できるSDGsの視点での「食メニュー」を発信・展開				
	1	阿波ふうどを体感できる場「まるごと徳島ダイニング」の展開	○	○	
	2	フードダイバーシティの展開（万博からの人の受入れ体制整備）	○		○
	3	サステナブルフードの魅力発信	○	○	○
	リアル×バーチャル×未来技術によるシナジー展開	MaaSでの2次交通充実等,未来技術による「アクセスの利便性向上」			
1		「とくしMaaS構築」による安心、快適、簡単周遊	○	○	○
2		「新たな海上交通」の導入	○	○	○
3		シャトルバス・チャーター便の運行	○	○	○
「メタバース上での観光・文化体験等」コンテンツ展開					
1		メタバース「とくしまバーチャルパビリオン」による魅力発信	○		○
2	とくしまバーチャル見本市		○	○	
3	全県メタバース構想の推進	○	○	○	

9 まるごとパビリオンアクセス (2022年度現在)



JAL/ANA		
徳島	⇔	羽田
徳島	⇔	福岡



電車・列車						
徳島	⇔	高松駅	⇔	岡山駅	⇔	本州・九州
徳島	⇔	阿波池田駅		⇔	高知	
徳島	⇔	高松駅		⇔	愛媛	



高速バス・夜行バス・路線バス

徳島	⇔	東京
徳島	⇔	神奈川
徳島	⇔	大阪
徳島	⇔	京都
徳島	⇔	兵庫
徳島	⇔	愛知
徳島	⇔	千葉
徳島	⇔	三重
徳島	⇔	岡山
徳島	⇔	広島
徳島	⇔	福岡
徳島	⇔	香川
徳島	⇔	愛媛
徳島	⇔	高知



鳴門の渦潮	【電車】JR鳴門駅より徳島バス鳴門公園行き約20分「鳴門観光港」停車下車 【車】鳴門北ICより約5分
渦の道	【電車】JR鳴門駅より徳島バス鳴門公園行き約25分「鳴門公園」停車下車、徒歩約5分 【車】鳴門北ICより約5分
大塚美術館	【電車】JR鳴門駅より徳島バス鳴門公園行き(約15分)「大塚国際美術館前」停車下車 【車】鳴門北ICより約3分
霊山寺	【電車】JR板東駅より徒歩約10分 【車】板野ICより約5分
鳴門市ドイツ館	【電車】JR鳴門駅より徳島バス鳴門大麻線「ドイツ館」停車下車 【車】板野ICより約10分
藍住町歴史館「藍の館」	【電車】JR徳島駅から徳島バス二条通り鴨島行き「東中富」停車下車、徒歩5分 【車】藍住ICより約5分
あすたむらんど徳島	【電車】JR徳島駅より銀治屋原行き「あすたむらんど」停車下車 【車】藍住ICより約15分
大浜海岸	【電車】JR日和佐駅よりタクシーで約5分、または徒歩約20分 【車】徳島ICより約90分
轟の滝	【電車】JR阿波海南駅より町営バス「轟神社」停車下車、徒歩約10分 【車】徳島ICより約180分
阿波おどり会館	【電車】JR徳島駅より徒歩約10分 【車】徳島ICより約20分
眉山ロープウェイ	【電車】JR徳島駅より徒歩約10分 【車】徳島ICより約20分
薬王寺	【電車】JR日和佐駅より徒歩約10分 【車】徳島ICより約100分
剣山	【電車】JR穴吹駅よりぐるっと剣山登山バスで「見ノ越」(登山リフト駅)まで約145分(4月中旬より運行) 【車】美馬ICより約90分(登山リフト駅:見ノ越まで)
うだつの町並み	【電車】JR穴吹駅より美馬市営バス「道の駅うだつ」停車下車 【車】脇田ICより約10分
祖谷のかずら橋	【電車】JR大歩危駅より四国交通バス かずら橋 または 久保行き「かずら橋」停車下車、徒歩約5分 【車】井川池田ICより約60分
大歩危・小歩危	【電車】JR大歩危駅から徒歩約23分 【車】井川池田ICより約35分
小便小僧	【電車】JR阿波池田駅より四国交通バスかずら橋行き「風呂ノ谷」停車下車、徒歩すぐ 【車】井川池田ICより約50分
大歩危 祖谷温泉郷	【電車】JR阿波池田駅より四国交通バスかずら橋行き「祖谷温泉前」停車下車 【車】井川池田ICより約55分
桃源郷 祖谷の山里	【電車】JR大歩危駅よりタクシーで約40分 【車】井川池田ICより約90分
案山子の里	【電車】JR阿波池田駅より四国交通バスで阿波池田BTより「久保」停車下車、市営バスに乗り換え「名頃」停車下車 【車】井川池田ICより約120分



フェリー				
新門司	⇔	徳島	⇔	東京
		徳島	⇔	和歌山

第4章 機運醸成・魅力発信計画

4

第4章 機運醸成・魅力発信計画

1 基本的な方針

全ての県民・企業等あらゆる主体が、大阪・関西万博に参画し、SDGsをはじめ、プロセスを含めた個々の取組みを点から線、面へと繋げ、万博に向けた県内の機運を早期より高め、多様な知識・技能が集い循環する「S-T R I P」の目的地として、SDGsをはじめとする取組を加速するとともに、世界中からの来訪者を迎えるため、先行した情報発信を展開

2 テーマ

“県民が参画し、県民が創る万博”として徳島で生かされる
「自然」、「人・モノ・コト」が「まるごと輝く」発信展開！

3 重点ターゲット・目標

3-1 目標

重点ターゲットを踏まえ、発信-検証サイクルを回す。

【成果指標】

- Webサイトへのアクセス数
- 機運醸成等の取組への参加人数
- 話題性やSNSでの投稿量など「盛り上がりの指標」を関連事業のKPIとして設定

3-2 重点ターゲット

- ファミリー（子供達へ万博の魅力発信と参画の機会創出）
- ビジネス（SDGsに関心が高い人々）
- インバウンド（半分程度を目指す）

4 コンテンツ（取組）

4-1 機運醸成の取組み

共に生き、共に創る“県民総活躍の万博”としての機運醸成

- **多様な個性が尊重されるダイバーシティの理念による万博参画**
 - 万博関連イベントや各種運営等への年齢・性別・障がいの有無に関わらず参画
 - 万博を契機とした徳島発ピクトグラムなどにより、五感に直接訴求する街全体を装飾するシティドレッシング
- **万博で“人”と“人”とが繋がる「徳島版ホストタウン」の展開**
 - オリパラのレガシーとしてスポーツと連携した展開
 - Made in Tokushima商品とのコラボによるビジネスチャンス創出や地域とのコラボメニューによる食の創出など、双方向のシナジー展開
 - ナショナルデーはじめ万博の各国パビリオンでのコラボイベント等の展開
 - 万博後を経て未来へと続くSDGs 共同宣言等のレガシー展開
- **持続可能な未来に向けてSDGs活動に取り組む次世代人材育成**
 - 万博へ向け、地域の課題を発見・探求し、改善するプロセスを魅力とする人材の育成
 - 日々の暮らしの現場で、来訪者を受け入れおもてなしを続ける人材の育成
 - Steam人材など地球規模での課題解決を視野に入れたソーシャルビジネスに係る次世代リーダーの育成

4-2 魅力発信の取組み

万博を機に世界へ！「持続可能な未来社会」へ挑み続ける徳島の発信展開

➤ SDGs活動、新たなチャレンジ等を推進する仕組みづくりとともに、活動に先行した魅力発信

- S D G s、未来技術活用等、新たな視点による観光資源の創出や地域課題解決
- 新たな情報・コミュニケーション基盤となる「メタバース」の活用等、新たなチャンネルによる魅力発信展開

➤ 万博に主体的に参画する「人」にフォーカスした魅力発信

- 伝統を守り、引き継ぐ地域の“人”のストーリーを魅力として情報発信
- 知識・技能の共創する人と人が出会う場の創出
- 会場での交流とコミュニティづくりの機会創出による関係構築による継続的な発信展開

➤ ワンストップ型ポータルサイトや万博会場、SNS等による網羅的な発信展開

季節、国際イベントなどの時節や、インスタグラム、ツイッターなど媒体に適した発信

【インバウンド】

- W E BやS N Sを活用した効率的な展開
- 国別コミュニティ内での情報拡散の取組

【国内・県外】

- 首都圏における情報発信
- 食や木工、藍染めと先端技術のコラボ等、新たな価値創出による魅力発信

【ビジネス（教育旅行を含む）】

- 環境やS D G sなど学びの旅行を通じた魅力発信
- ロゴマークやバッジ等、万博関連プロジェクトの「見える化」によるブランディング

【ファミリー（子供達を含む）】

- 学校等を通じ、家族や地域に波及する魅力発信

4-3 機運醸成・魅力発信におけるシナジー展開

リアル× バーチャル× 未来技術によるシナジー展開

➤ アニメはじめ、バーチャルパビリオンと相性の良い分野を活用した効果的な機運醸成・魅力発信

- 「阿波おどり×アニメ×メタバース」をはじめ、多彩なコンテンツとのコラボレーションによる「とくしまバーチャルパビリオン」の展開
- とくしまバーチャルパビリオンによる国籍・性別・障がいの有無に関わらず参画できるコンテンツの展開
- メタバース内を活用した企業・団体等の新たな組織運営・ビジネスチャンス創出
- 「メタバース内コンシェルジュ」としての活躍をはじめ、多様な人材の雇用機会の創出
- 万博本体「バーチャル万博」のカウンターパートとなるデジタルツイン「もうひとつの徳島」展開

4-3 機運醸成・魅力発信におけるシナジー展開

リアル×バーチャル×未来技術によるシナジー展開

➤ 万博本体や国、関西広域連合府県市、市町村等、関係機関と連携したシナジー効果を生み出す展開

- 市町村等、関係機関のイベント・取組みを「万博認証」することによる参画の促進
- 関係機関はじめ、幅広いボランティア参画による県内の「共創体験」の創出
- 万博本体催事等への「徳島の強み」を活かした出展や、関西広域連合等と連携した催事展開
- 万博本体のシグネチャーパビリオンはじめ会場出展パビリオンと連携した展開による魅力発信や課題解決人材の育成はじめ万博レガシーの創出

4-4 2023年における機運醸成・魅力発信にかかる重点事業

4-4-1 「プレ²万博」開催

2025年の万博本番からバックキャストイングし、万博へ向けた各種取組を「プレ²万博」として、徳島県内にて早期に開催することにより、徳島パビリオンの一部先行体験や、「まるごとパビリオン」のコンテンツを展開するなど、徳島県全体で県民や企業、市町村の参画を促し、“県民が参画し、県民が創る万博”の実証事業として展開していく。

また、とくしまバーチャルパビリオンでも「プレ²万博」が同時に体験ができるコンテンツを用意し、時間・場所を問わず、徳島の魅力を体感できる「デジタルツイン」を実現していく。

期間 2023年度

会場 徳島東部エリアをメイン会場に南部・西部エリアにサテライト会場を設置

4-4-2 首都圏における情報発信

FRaU万博期待号による強力発信展開

2023年3月に発行される「FRaU まるごと徳島万博期待号」や「コンセプトムービー」のPR効果を最大限活用し、WEB発信や首都圏での映像放映、イベント展開など、首都圏における「万博といえば徳島」のブランディングイベントの開催

4-4-3 シティドレッシング（街全体の万博装飾）

2023年度より、徳島県関連施設、スポーツ施設、主要観光地、学校、空港、ショッピングセンターなど、徳島の主要スポットで「大阪・関西万博」に向けた機運を高めるため、街全体を装飾するシティドレッシングを実施。徳島県全体で万博ムードを高め、県民からの期待感を醸成し、万博への参画意欲を高める取組とする。

4-4-4 サステナブルスポンサーシップPROJECT

徳島パビリオンにおいて展開する展示物等の提供などの「協賛システム」を構築し、企業・団体、教育機関等、多彩な主体が、協賛品の提供のみではなく、「制作→展示→回帰」というプロセス自体に参画することで、万博・徳島双方向での価値の循環を創出する「サステナブルプロジェクト」を展開。

第5章

大阪・関西万博

「徳島『まるごとパビリオン』資金計画」

5

1 資金計画

(1) 基本方針

公費負担、企業・団体・個人から協賛・寄付を募り、官民連携により徳島パビリオン出展を実現することにある。徳島パビリオンに必要な資金は、分類すると造作施工費、機材・コンテンツ関連費、保守費、運営費などが想定される。

協賛に関しては、パビリオン内展示スペース、催事において特典を提供し獲得を加速させることを企画する。

(2) 資金確保計画

➤ 協賛金の確保

民間資金については、企業・団体・個人から協賛・寄付（ふるさと納税含む）を中心に、協賛特典の提供と一体的に検討する。

➤ 協賛の仕組みの構築

企業・団体・個人からの協賛・寄付については、スキームを構築し、募集を行い、必要資金の確保をしていく。

➤ サステナブルスポンサーシップPROJECT（再掲）

徳島パビリオンにおいて展開する展示物等の提供などの「協賛システム」を構築。企業・団体、教育機関等、多彩な主体が、協賛品の提供のみではなく、「制作→展示→回帰」というプロセス自体に参画することで、万博・徳島双方向での価値の循環を創出するプロジェクトを展開する。

第6章

大阪・関西万博

「徳島『まるごとパビリオン』事業推進計画」

6

第6章 「徳島『まるごとパビリオン』事業推進計画」

1 リスク管理

万博の開催は、大規模な会場建設、世界各国の参加招請、6ヵ月間の会場運営等、多種多様な事業が密接に 関係しながら並行した総合的な事業であり、約2,820万人の来場者や各国からの参加者の安全を確保し、安心して参加できる万博を実現するため、2025年日本国際博覧会協会と同様に徳島「まるごとパビリオン」の事業推進においても、リスクマネジメントの考え方にに基づき、早期からリスクを洗い出し、その 顕在化の抑制に取り組んでいく。

また、自然災害等のリスクが顕在化し、万博事業の推進が困難となるような危機的事態の発生に備えて、来場者・参加者の安全を守り、被害を最小限に留められるよう総合的な危機管理にも取り組んでいく。

会期前の事業リスク管理

徳島県万博推進課内にリスク管理の実施体制を設け、予見されるリスクを網羅的に洗い出す。管理対象とするリスク、危機につながる重大なリスクを明確にし、関連する外部機関と連携しながら、開催まで継続的にリスクの予兆を捉え、リスクの顕在化を抑制する対策を講じる。

会期中の事業リスク管理

会期中の会場運営管理に関わる徳島県万博推進課内と業務委託先機関を含めたリスク管理の実施体制を整備し、会期中のリスクの予兆把握と顕在化防止に努める。並行して、事故等の発生時の連絡・報告・判断を円滑に行う仕組みを整備することで、迅速な対応を図る。

リスク顕在化時への対応（危機管理）

自然災害やテロ（サイバーテロを含む）等の重大なリスクが顕在し、万博事業の遂行に危機的事態が発生した場合に備え、そのような非常時に対応を総合的に判断・指揮できる体制の準備を進めていく。国家的・国際的事業の存続に関わる状況にも対応するため、博覧会協会、政府、民間企業等と連携する体制を整備する。

感染症対策

感染症対策については、東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会、ドバイ万博等大規模イベントでの感染症対策を参考に必要な対策を講じる。また、感染症対策検討会議を設置し、会期前から閉会までその時々に応じた多角的な感染症対策について、専門家の意見を踏まえ必要な検討を行う。

また、2025年日本国際博覧会協会、関西広域連合における感染症対策と連携した運営を図る。

**2025年大阪・関西万博
「徳島まるごとパビリオン」
基本計画**